

第19回東北CAE懇話会10周年記念大会(同懇話会主催)は26日、北上市相去町の北上オフィスプラザで開かれた。「金型・CAEによる東北ものづくりの復興」をテーマに、基調講演や企業、研究者による事例発表などを通して参加者約100人がコンピューター・シミュレーション技術の未来や実践を学んだ。



同懇話会は、東北を中心にコンピューター・シミュレーション技術を普及することを目的に活動している。設立10周年を祝して、県内でも有数の産業集積地の同市で開催した。

大会には県内外の企業や大学などから会員や研究者、大学生らが参加。開会式で片野圭二会長は「金型にテーマを絞りCAEでの復興を目的に開催する。大いに交流を深めて東北のものづくりの復興に向けて有意義な活動にしてもらいたい」とあいさつした。

基調講演では、岩手大副学長の岩淵明氏が「ものづくり産学官連携に期待する」と題して講演。ものづくりはグローバル化の中で、世界のニーズに応えられる人材の育成が求められ大学側は世界共通の知識を教えるためにも企業のニーズを知る必要があることを説明。

海外のものづくり産業が台頭してきている中で、日本の優位性を維持するために産学官連携を強調し、「目標を共有化し得意分野を役割分担することがこれからのミッション。達成できた時に日本のイノベーションができるのでは」と呼び掛けた。

企業や研究者による事例発表、解析塾は4会場に分かれて行われたほか、京都大副学長の小寺秀俊氏は「日本のイノベーション創出への課題」と題して特別講演した。

【写真】事例発表や講演を通してコンピューター・シミュレーション技術に学びを深めた第19回東北CAE懇話会10周年記念大会